下川原焼土人形
鳩笛
青森県 弘前市

下川原焼は日用雑器をつくる津軽藩の御用窯でした。当時の藩主が津軽の地に玩具が少ないことを憂い、「冬期の閑暇を利用して土人形をつくることを命じました。以来約二百年間、鳩笛や干支張などさまざまな人形がつくられており、津軽を代表する縁起物として人々から親しまれています。

阿保 正志
〒036-8061 青森県弘前市大字新里字上種蒔 85-2
TEL 0172-27-2366

六原張子
起き上がり小法師 鶯（ウ）
岩手県 胆沢郡

張子は通常木型などの外側に和紙を貼って作成しますが、六原張子は固型の型に成為（なろし）和紙を丹金に糊付けする「内張り」という技法でつくられます。鶯（うぐ）は鳥の名前で、年に一度天満宮で「鶯替え神事」が行われます。鶯と嘘という語呂合わせで、鶯の人形を飾り替えることで、一年の悪いことが嘘になるようにという願いが込められています。

さわにん工房
〒029-4507 岩手県奥州市胆沢区小姉町字八幡堂 30-36
TEL 0197-46-2307

干支張子
酉
岩手県 花巻市

宮沢賢治の生誕地としても知られる岩手県花巻市。豊かな文化を育み、古くからの伝統が息づくこの地では郷土玩具も数多くつくり続けられています。節句や年中行事に合わせ、人々は様々な願いを込めて人形を飾ってきました。新年を迎える準備として、その年の守り神である干支の人形を飾ることで一年間家を守ってくれるといわれています。

小田島民芸所
〒025-0084 岩手県花巻市材木町 10-28
TEL 0198-23-4656

堤人形
招き猫
宮城県 仙台市

堤人形は伊達政宗公の時代に藩内の産業発展のため始まりました。現在でも当時の型を使ってつくられており、千数百個にのぼる土型の一部は、仙台市の有形文化財に指定されています。

つつみのおひなっこや
〒981-0912 宮城県仙台市青葉区堤町 2-10-10
TEL 022-223-6469

仙台張子
酉
宮城県 仙台市

仙台では毎年、和紙の柔らかい表情を活かしたかわいらしい首振りの干支人形がつくられ親しまれています。十二支は古代中国で時を表す単位として用いられており、文字の読めない庶民にも理解できるよう動物のみをあてはめたといわれ、現代にも息づく信仰の対象となっています。

高橋はじめ工房
〒980-0801 宮城県仙台市青葉区中江 2-4-5
TEL 022-222-6806

弥治郎こけし
福島県 いわき市

こけしは昔、木地師が子どもに与えた玩具が発祥で、次第に湯治場のお土産ものとして東北地方で盛んにつくられるようになりました。伝統こけしは現在十一の系統があり、弥治郎こけしは宮城県の弥治郎地区で誕生しました。頭のベレー帽のようなろくろ模様が特長で、少女の愛らしい表情が見る人の心を和ませます。

木地師さとう
〒974-8022 福島県いわき市平鎧平地字内 92-3
TEL 0246-25-8246

白河だるま
福島県 白河市

三百年ほど前からつくられている白河だるまは、眉は鶴、ひげは亀、梅のぴんひげは松と竹、あごひげは竹を表す、大変縁起のよいだるまです。願いを込めて向かって右側の目に目玉を入れると必ず成就するといわれています。

白河だるま総本舗 渡辺だるま店
〒961-0002 福島県白河市横町 30
TEL 0248-23-3878

三春張り子
めで鯛
福島県 郡山市

三春で張子人形がつくられ始めたのは、一説によると三百数十年前。京都の伏見人形が三春地方に伝わり、高萩村の人々がそれを真似、副業として張り子人形をつくり始めました。今でも「高萩ザッ張敷」と呼ばれる集落で様々な郷土玩具がつくられています。ふっくらした真っ赤な鯛は、「めで鯛」という名の縁起物として広く親しまれています。

谷治民芸（有）
〒963-0862 福島県郡山市西田町高塚字屋敷 88-1
TEL 024-952-3412

中湯川人形
来らんしょ鳥
福島県 会津若松市

会津若松市の山中でつくられる中湯川人形は、数多くの型があり、それぞれ個性的な表情を楽しむことができる土人形です。「こらんしょ」とは当地の言葉で「どうぞ、こちらにお出でください」という意味。三つ指をついて福を歓迎する、招福の干支人形です。

工房 千悉
〒965-0015 福島県会津若松市東山町中溝片 256
TEL 0242-28-3840

赤べこ
福島県 会津若松市

会津地方では牛のことを「べこ」と呼びます。干二百年前、会津藩津・福満虚空蔵尊圓蔵寺の建立の際、最後まで働き通したのが赤色の牛と伝えられています。その赤色の牛にあやかり昔から子孫の誕生には仕掛を贈り、また疫病除としても贈られ、親しまれています。

（有）民芸品委員会
〒965-0011 福島県会津若松市和田 1-6-3
TEL 0242-27-4159

高崎だるま
群馬県 高崎市

少林寺達磨寺で七草の縁日に売り出されたのが縁起だるまの始まりです。目は眉、ひげは亀を表し、転んでも起き上がることから、七転び八起きの縁起物として大切にされてきました。片方の目に願を掛け目入れし、願いがなったら残りの目を入れる風習は、養蚕農家から広まりました。

吉田だるま店（株）
〒370-0803 群馬県高崎市鼻高町 43-7
TEL 027-327-0827

黄鮒（ぶな）
栃木県 宇都宮市

昔、宇都宮市内で天然痘が大流行し、川で獲れた鮒のように大きい黄色の粘を食べると鮒の人々が助かったと言い伝えられています。それからは、無病息災を祈り新年に張子の黄鮒を神さまに供えるようになりました。

（有）ふくべ屋
〒323-0011 栃木県宇都宮市大通り 2-4-4
TEL 028-634-2363

練り物
干支鳥
埼玉県 越谷市

埼玉県は大都市江戸に近かったことから、玩具の一大生産地として栄え現在に至っています。練り物はおが屑を固めてつくられ、干支、だるま、招き猫など縁起のよい様々なモチーフの愛らしい人形が数多くつくられています。

鈴亀人形店
〒343-0012 埼玉県越谷市大沢 4-6-52
TEL 048-976-2266

今戸焼
鳩笛
東京都 台東区

浅草寺に近い東京都台東区の今戸で焼かれていた人形です。今戸には江戸時代、いくつもの窯があり日用雑器などがつくられていた。土人形も古くからあり、江戸時代の浮世絵にも描かれています。

今戸焼白井工房
〒111-0024 東京都台東区今戸 1-2-18
TEL 03-3872-5277

浦佐の猫面
新潟県 魚沼市

浦佐の猫面は、かつて新潟県南魚沼市浦佐の普光寺の境外門堂で「魔除けの猫面」として売られていた。江戸時代のお寺造りの伝説からうまれ、浦佐の猫押しない祭のもとになったといわれています。

早津ギャラリー
〒946-0041 新潟県魚沼市青島 1581-16
TEL 025-792-1451

とやま土人形
酉
富山県 富山市

とやま土人形は、江戸時代末期から発展し、縁起物や民間信仰の神像、子どもの玩具など、様々な土人形がつくられ親しまれてきました。梅は「福をとりこむ」と言われ縁起物として喜ばれてきました。

とやま土人形伝来会
〒930-0083 富山県富山市安養坊 1110-1
TEL 076-421-4464

五箇山の紙塑人形
酉
富山県 南砺市

世界遺産の合掌造り集落で有名な富山県五箇山では古くから手漉き和紙の生産が行われていました。和紙生産の際に出る原料の端材を再利用し、手づくりの紙粘土に加工します。紙粘土を型に押し込み、形づくって着彩したものが紙塑人形で、伝統的な郷土観や干支の人形など愛らしい縁起物がつくられています。

農事組合法人五箇山和紙
〒939-1923 富山県南砺市下梨 149
TEL 0763-66-2016

金沢張子
酉
石川県 金沢市

金沢に数多くある玩具は、江戸時代後期に加賀藩の下級武士の手内職として広まり、正月の市や祭礼の際に売られていました。干支張子は愛嬌たっぷりにゆらゆらゆれる起き上がりのかたちをしています。

（株）中島のんや
〒920-0962 石川県金沢市花園町 2-3-12
TEL 076-232-1419

うるしダルマ
福井県 小浜市

うるしダルマは、うるしの塗箸の生産地として有名な福井県若狭地方でつくられる工芸品です。塗箸でもっかわれる合成うるし（色）を固め、削りだして加工した独特のだるまで、起き上がり小法師を原型とするだるまとは異なり、三角形やお形などの「転ばない」かたちが、交換のお守りとしても珍重されています。

※合成樹脂のため、本製品は本漆（うるし）製ではありません。

ツカセト民芸センター
〒917-0061 福井県小浜市福谷 9-29-8
TEL 0770-52-2380

甲州親子だるま
山梨県 甲府市

四百年以上の歴史がある甲州だるま。生糸工業の産地であった山梨では、豊作を祈り白いだるまを祀る習慣が広まり「木綿だるま」とも呼ばれていました。後にうまれた親子だるまは、室内安全、子孫繁栄を祈り、親に子どもを抱いています。神棚に祀った際に、祥む人だるまの親の目が合うよう、目鼻が工夫されています。

民芸工房がくなん
〒400-0062 山梨県甲府市池田 2-3-27
TEL 055-252-7061

上田獅子
長野県 上田市

上田獅子（常田獅子、岡山獅子）は、真田幸村ゆかり、昌幸が上田城を築城する際、地固めの式で舞われた伝統的な獅子舞です。上田では大正時代の農民美術運動により木彫りの手工芸が盛んに広まり、上田獅子の木彫りを縁起物として慶事などに贈り合う習慣があります。

クラサワ工房
〒386-0411 長野県上田市生田 2085
TEL 0268-45-4043

猿ぼぼ
岐阜県 高山市

岐阜県飛騨地方では赤ん坊のことを「ぼぼ」という。猿ぼぼは猿の赤ん坊の人形で、古くは親が子の成長を願いながらつくり、玩具として子どもに与えたものです。赤は魔除け、疫病除けの色として、かつての女性のお腰（着物の下に着ける下着）にも使われ、猿汪君はお腰の生地でつくられていました。

円空洞
〒 506-0025 岐阜県高山市天満町 6-7
TEL 0577-32-1365

乙川人形
招き猫
愛知県

乙川人形は、およそ二百年前、幾卿を生業とした初代が、京都で目にした伏見人形に心をひかれ、試行錯誤を繰り返しつくりあげた土人形です。常滑焼などに見られる一般的な陶製の招き猫は、乙川人形を原型としているといわれています。千客万来、商売繁盛、福を呼び込む招き猫です。

乙川人形屋
〒475-0016 愛知県半田市乙川潮騒町 179
TEL 0569-21-3404

近江だるま
滋賀県 東近江市

近江だるまは滋賀県の琵琶湖近くで大正時代からつくられています。中仙道を往来する人々で近江が栄えた近江では、「小幡でこ」や「大津絵」など京都の伏見人形の影響を受けているといわれるものが数多くあります。近江だるまの面風はその大津絵と共通する面白さがあり、愛嬌のある表情はたくさん人々に親しまれてきました。

近江だるま保存会
〒521-1214 滋賀県東近江市林町 43-2
TEL 090-3494-3180

伏見人形
酉
京都府 京都市

千本鳥居で有名な京都の伏見稲荷大社の門前には、古来土と縁起が住み捨物をつくっていました。江戸時代に入ると参拝客の土産品として土人形が珍重されるようになり、その技法は全国に伝わっていきました。今では国内に九十種類以上ある土人形の元祖であるといわれています。

丹嘉
〒601-8301 京都府京都市南山区本町 22-384
TEL 075-561-0027

大阪張子
虎張子
大阪府 柏原市

大阪張子は子どもの成長を祈る玩具として江戸時代から親しまれてきました。日本で初めて見沙門天が現れたとされる信貴山（しぎさん）の朝護孫子寺（ちょうごそんじ）では、張子の虎がお守りとして授与され、大阪張子を模型した「世界一張子」も親しまれています。大阪では5月5日の端午の節句に、男とともに張子の虎を飾って男の子の成長を祝います。

大阪張り子工房 墓原店
〒582-0007 大阪府柏原市上市 1-4-22
TEL 072-972-0423

初瀬出雲人形
座り犬
奈良県 桜井市

奈良県桜井市出雲でつくられる初瀬出雲人形の歴史は大変古く、約二千年前の土偶の生産が起源とされています。現在でも張を使わず、粘土を焼やして野焼きにより焼成されています。犬は多産で子産が軽いため、安産や子育ての守りとして親しまれてきました。

木野 徳徳
〒633-0122 奈良県桜井市出雲町 1206
TEL 0744-47-7255

一刀彫
八咫烏（ヤタガラス）
和歌山県 田辺市

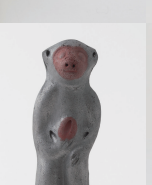
和歌山県の熊野地方には古くから八咫烏という三本足の鳥の伝説があり、導きの神として人々に信仰されてきました。良質な木材の産地である紀州で育った松に、二羽の八咫烏が向かい合って描かれています。丸い眼が描れることで二羽の八咫烏が舞っているように見え、この地に伝わる舞踊の風習にも通じています。

文左
〒646-0028 和歌山県田辺市高雄 1-22-9
TEL 0739-22-8655

瓦猿
和歌山県 和歌山市

瓦猿はそのるの通り、瓦の製法でつくられる猿の土人形です。江戸時代より和歌山市田中町は瓦町と呼ばれ、瓦職人の町として栄えてきました。その頃から安産・子授けの祈願で奉納されてきましたが、近年では「変わらず」ということで安産を祈願するお守りとしても広まっています。

野上 春司郎
〒640-8139 和歌山県和歌山市田中町 4-112
TEL 073-422-1980



鳥取のえと
酉
鳥取県 鳥取市

鳥取の山林で採れる杉材や檜材でつくられる木彫りの干支人形です。古くから民藝や手工芸がさかんな土地柄もあり、戦後から、伝統的な使い勝手りの樽をつくられてきました。モダンな色使いや表情が新鮮な印象です。

侯夫工芸店
〒680-0015 鳥取県鳥取市三町 116
TEL 0857-23-0596

玉島だるま
岡山県 倉敷市

西日本では数少ないだるまの産地である玉島地区の玉島だるまは、戦後から生産が始まりました。起き上がりこぼしのような郷土玩具として幅広い世代に親しまれ、子どもの健やかな成長を願ったり、合格を祈願したりする縁起けだるまとして広く利用されています。

玉島だるま生製造所
〒713-8103 岡山県倉敷市玉島乙島 1615-7
TEL 086-522-2713

長州土鈴
幸ふく
山口県 美祢市

河豚（ふく）は下関では「ふく」と呼ばれ、幸福の福を重れて縁起をかつぎ、福をもたらす魚として昔から愛着を持たれてきました。ふっくらとしたかたちがどこかおとぼけた表情は見る人を幸福な気持ちにしてくれます。

（有）民芸くらんと
〒754-0211 山口県美祢市秋芳町秋吉 614
TEL 0837-62-0208

大谷焼
たぬき
徳島県 鳴門市

徳島県の鳴門市にある大谷焼は江戸時代から続いており、食器や置物、花器などがつくり続けられています。阿波陶会幟でも有名な、たぬきがモチーフになっていて、福々とユウかりう愛嬌、おなごの大敵をたいているように感じられます。

大谷焼 陶業会館 梅笠窯
〒772-0202 徳島県鳴門市大麻町大谷字道の上 38-1
TEL 088-689-0040

高松張子
めんどり
香川県 高松市

卵を抱えた干支の張子です。高松市内には江戸時代から玩具や人形をつくる店が多くあり、張子の人形は子どもの遊び道具や、子どもの病気の身代わりや魔除けとして用いられてきました。

張子工房クスイ
〒761-0412 香川県高松市香南町 33-2
TEL 087-882-4247

矮鶏車（チャボ）
高知県 高知市

高知県では多くの矮鶏が国の天然記念物に指定されています。矮鶏は体がかさく尾羽が特徴的でさくらから親しまれてきました。小さくて丸みのある矮鶏の形をイ彫りでつくり、鮮やかな色で仕上げられた矮鶏の車です。

とろ民芸店・ちゃきルギャラリー
〒780-0013 高知県高知市潮江ひまり町 1-13-2
TEL 088-882-0171

土佐和紙漆喰張子
矮鶏
高知県 吾川郡

この郷中子が作られている吾川郡いの町は、天然記念物に指定された地鶏鶏（うずらちゃぼ）の誕生の地です。干支の縁起物として小さくてかわいらしい土佐の矮鶏を土佐和紙と土佐漆喰を素材につくられています。

草苑舎
〒781-2110 高知県吾川郡いの町 2811
TEL 088-892-3045

筑前津屋崎人形
モマ笛
福岡県 福津市

福岡県津屋崎ではふくろうのことを「モマ」といいます。ふくろうは、先をみ通す能力を持つ生き物とされ、「ホウホウ」と優しい音色を奏でるこの土笛は、吹くと気道が広がることから、かつては妊娠中の食べ物を喉につまらせないおまじないとして、食卓で吹かれていました。

筑前津屋崎人形巧房
〒811-3304 福岡県福津市津屋崎 3-14-2
TEL 0940-52-0419

のごみ人形
みみずく鈴
佐賀県 鹿島市

日本三大稲荷のひとつ、祐徳稲荷神社の参道で売られるのごみ人形は、第二次世界大戦後の頃の中を明るくしたいという思いからつくられ始めました。みみずくはふくろうの仲間で、「不苦労」の語呂あわせから縁起のよい鳥として愛されています。

のごみ人形工房
〒849-1314 佐賀県鹿島市大字山浦甲 1324
TEL 0954-63-0065

古賀人形
猫
長崎県 長崎市

京都の伏見人形、宮城の堤人形と並び、日本三大土人形に数えられる長崎の古賀人形が創業は1502年。鮮やかな色彩を用い、西洋人や文豪人を表した人形も数多くあります。昔から猫は鼠を捕るため、農家や実業を営む家で重宝されており、幸運を呼びこむ縁起のよい動物といわれます。

小川 憲一
〒851-0401 長崎県長崎市宇笠町 1533
TEL 095-838-3869

キジ馬
熊本県 人吉市

キジ馬は九州各地で見られる愚型の車の玩具のひとつで、人吉のあこ馬は頭の上に「丸」の文字が描かれているのが特長です。一説には壇ノ浦の戦に敗れた平家の一門が人吉球磨地方に逃れたのち、生活の糧としてあこ馬をつくりはじめ、車やふな形の生活を慰かしみながら、故郷である京都の大文字焼きを思い「丸」の文字を入れたといわれています。

吉原工芸
〒868-0062 熊本県人吉市中神町 512-2
TEL 0966-23-3070

彦一こま
熊本県 八代郡

九州の民話「彦一とんち話」に登場するタヌキがモデルで、分解すると、笠・頭・胴体・尻尾と士台それぞれがコマとなる遊びのある縁起物です。タヌキは徳虎繁盛・開運のお守りとして親しまれていて、郷土色あふれる愛らしい人形は、つくりその心を映し出しているかのように柔和な表情を湛えています。

彦一こま
〒869-4412 熊本県八代郡氷川町宮原 935-1
TEL 0965-42-2266

木の葉猿
馬乗りざる
熊本県 玉名郡

1300年前、木葉山の赤土で祭器をつくり、残りの土を捨てたら猿に化したという伝説から生まれたと伝えられる木の葉猿。魔除け、災難除け、安産、子宝、子孫繁栄の守り神として古くから親しまれています。型を使わず指先だけで粘土をひねってつくられ、茶色い肌は素焼きそのままの素朴な風合いとなっています。

木の葉猿窯元
〒869-0302 熊本県玉名郡玉東町木葉 68
TEL 0968-85-2052

みくじ鳩
大分県 別府市

温泉どころとして有名な別府市でつくられるみくじ鳩。昭和初期に宇佐神宮で、張子の中におみくじを入れ授与されていました。鮮やかで優雅な色使いの土人形のとして復刻され、現在でも親しまれています。

豊泉堂
〒875-0042 大分県佐伯市小倉 1組の3
TEL 0972-21-1040

佐土原土人形
くじら
宮崎県 宮崎市

佐土原人形は四百年ほど前朝鮮から来ていた陶工に習ってつくられたのが始まりと言われています。明治時代初期から大正時代に盛んにつくられるようになり、多くの人に親しまれてきました。今でも昔から残る型を元につくられ、土でできた素朴なかたち、温かい色調が特長です。

佐土原人形店 さすや
〒880-0201 宮崎県宮崎市佐土原町上田島 1386-10
TEL 0985-74-4349

帖佐人形
酉（ドリ）
鹿児島県 姶良市

帖佐人形の歴史は古く、1597年慶長の役の朝鮮出兵の帰途、島津義弘と共に渡来した陶工達が、帖佐村に窯を築き帖佐焼を始めのると共に、人形の製作も始め地元民に親来したのが創始とされています。目に鮮やかな色彩は、いかにも縁起がよく、他の節句や端午の節句など節目の日に縁起物として贈られる風習があります。

帖佐人形窯元
〒899-5431 鹿児島県姶良市西餅谷 1372
TEL 099-227-7014

琉球張子
酉
沖縄県 那覇市

南国特有の豊かな色彩で彩られた琉球張子は、もともと首里士族の子どものためにつくられていたものが、明治以降一般に広がりました。大陸の匂いが色濃く残る愛嬌のある張子人形です。

ロードワークス
〒900-0013 沖縄県那覇市牧志 3-4-2
TEL 098-868-1438